



College Women's Association of Japan 2025 Annual Report

March 2026



視覚障害者支援プログラム50周年—今もなお続くボランティア活動

2025年、視覚障害者との交流の会(VVI)は創立50周年を迎えました。1975年に視覚障害のある大学生の英語学習支援から始まったVVIは、50年にわたり時代の変化に対応しながら、日本の視覚障害者に意義あるプログラムを提供し続けています。視覚障害学生奨学金の創設と版画展における「ハンズ・オン・アート展」開催など、CWAJ組織全体が係わる支援へと広がっていきました。

この節目の年を祝い、二つのイベントを開催しました。4月には受賞歴のあるドキュメンタリー映画『ライフ・イズ・クライミング!』をアルカディア市ヶ谷で満席の中上映。パラクライマーの「コバ」こと小林幸一郎さんと視覚ガイドの鈴木直也さんの感動的な物語に観客は心を打たれ、質疑応答では二人の体験談に大きな感銘を受けました。本作品は日本語音声に英語字幕と視覚障害者向け音声解説をつけ、多様な観客層に配慮した上映となりました。

11月には第2回記念行事「CWAJ VVI 50周年記念コンサート 菅田利佳ピアノリサイタル(ソプラノ:工藤星奈)」を開催しました。光栄にも秋篠宮妃殿下のご臨席を賜りました。2021年度CWAJ視覚障害学生奨学生である(視覚障害者の)ピアニスト、菅田利佳さんがバッハ、ベートーヴェン、ショパン、メンデルスゾーン の作品を演奏。同じく視覚障害者のソプラノ歌手、工藤星奈さんの美しい歌声もプログラムに加わりました。満員の会場には、CWAJが長年にわたり緊密な関係を築いてきた視覚障害者支援の団体代表者や関係者がご来場くださいました。プログラムは点字版・拡大活字版も用意し、全ての来場者のニーズに対応しました。さらに記念品として、VVI創立50周年記念誌冊子『VVIの50年』を来場者全員に配布しました。

トリプル受賞—CWAJの奨学金プログラムと地域貢献を称賛—

女性のチャレンジ支援賞: 1949年の創立以来、未来のリーダー育成に取り組む当団体の姿勢が認められ、2025年6月、内閣府男女共同参画局よりCWAJに授与。CWAJは渡航助成金や奨学金を通じて女性を支援。この長年にわたるプログラムは、未来の国内外リーダー育成へのコミットメントを体現している。

外務大臣表彰(2025年度): 独自の奨学金プログラム及び毎年開催の現代日本版画展を通じ、日本と諸外国の文化的・知的・美的価値観の相互理解促進に貢献した功績に対して、2025年9月、外務省より大臣表彰授与されました。

第33回ヘレン・ケラー・サリバン賞: 日本の視覚障害者コミュニティへの50年にわたる貢献が評価され、2025年9月、東京ヘレン・ケラー協会よりCWAJに授与されました。この賞は、視覚障害者の自立と生活の質向上に貢献した個人・団体を称えるものです。



行事のお知らせ

CWAJ 奨学金

2026年度 CWAJ 奨学生発表会

2026年5月13日
日本外国特派員協会

CWAJ 現代版画展

第69回CWAJ 現代版画展

2026年10月14日(水) - 18日(日)
ヒルサイドフォーラム
(代官山 ヒルサイドテラス F棟)

2026年アソシエイトショー

YooKooSoo ようこそ横尾忠則の宇宙空間へ (TBA)
10月20日(火) - 11月9日(月)
東京アメリカンクラブ (麻布台)

CWAJ オンラインギャラリー <https://cwaj-gallery.jp>



その他のイベント

文楽の舞台裏 糸で操らない人形芝居の世界

2026年5月18日

CWAJ版画展は2027年に70周年を迎えます!

第70回 CWAJ 現代版画展

2027年10月13日(水) - 17日(日)
ヒルサイドフォーラム
(代官山 ヒルサイドテラス F棟)

ご支援・ご協力をお願い

CWAJは年間を通して、教育・奨学金プログラムへのご寄付、並びに遺贈によるご寄付を受け付けております。皆さまからのご支援によりこれからの若者が大きな夢を叶えることができるのです。2023年と2024年に続き、2025年も、カルティエ ジャパンより、CWAJの活動に共鳴して多大なご寄付をいただきました。同じくイタリアを代表するファッションブランドのロロ・ピアーナジャパンも、女性アーティストをご支援くださいました。CWAJへのご寄付は、国際交流基金の「特定寄付金制度」を活用して、税制上の優遇措置が受けられます。ご寄付に関する詳細はメールでお問い合わせください。

donations@cwaj.org

CWAJとは

@TheCWAJ

@cwaj_japan

cwaj.org

一般社団法人CWAJ(カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン)は、「女性が女性を支える」という理念のもと、CWAJ奨学金、CWAJ現代版画展、視覚障害者や児童養護施設の子どものための英語教育など、さまざまなプログラムを通じて教育・文化の推進に努めている非営利ボランティア団体です。約25か国から集まった約400名の女性会員が、無償のボランティアとして幅広い交流の中で友情を深め、楽しみながら教育・文化活動を行っています。1972年に創設されたCWAJ奨学金は、国内外の女子大学院生・視覚障害男女学生など、のべ約900名に支給され、各界のリーダーを育ててきました。また、2021年度からはコロナ禍への取り組みとしてCWAJ看護学生奨学金を立ち上げるなど、常に社会のニーズを見据えて活動しています。ボランティア活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語で行います。CWAJ入会についてのお問合せは membership@cwaj.org へどうぞ。



第68回 CWAJ 版画展

第68回CWAJ現代版画展は、代官山のヒルサイドフォーラムで10月15日から19日まで開催されました。世界的に著名な作家から新進気鋭のアーティストからまで、公募で選ばれた多彩な版画作品と招待出品の計208点が展示された会場には、国内外から訪れる来場者が途切れることなく、めざましいにぎわいとなりました。また、今回は海外のギャラリー関係者の姿が目立ちました。

これに先立ち15日の夕刻に開かれたオープニングレセプションは、出品作家80余名と多数のご支援者、各方面の招待者など200名以上が会場を埋め、会員を交えてワインを片手に交歓する華やかなイベントとなりました。ヤング・プリントメーカー賞(YPA)、ロロ・ピアーナ女性アーティスト奨励賞、第68回版画展委員会賞の受賞式等に続き、長年CWAJのよき理解者でもある清水美三子女子美術大学教授が乾杯の音頭を取って開会が宣言されました。

会場では例年通り英語やフランス語での充実したガイドツアーが連日複数回提供されたほか、10月16日にカタログ表紙作家 今野規子さんによるサイン会、17日はデンマーク人のアートディレクター、マリーヌ・ワグナー氏による講演会、18日は秋山高英・豊英氏によるトーク「わが父、秋山巖」、そして19日には門馬英美さ

んによるシルクスクリーン・プリントのデモンストレーションおよび摺り体験と、連日魅力的なプログラムが並び、長蛇の列ができました。視覚に障害のある方が版画を観賞するためのプログラム「ハンズ・オン・アート」も例年通り行われ、多くの来場者が立体コピーに触れて楽しみました。

斬新な企画で毎年注目の特別展。2025年は「アメージング富士山!」と題し、日本人のインスピレーションの源であるあの富士山をテーマに選びました。萩原英雄、横尾忠則など古今の巨匠6名による多彩な表情の富士山は、版画愛好家はもちろんアーティストからも大きな注目を浴びました。なお、この展示はヒルサイドフォーラムのほか、東京アメリカンクラブのフレデリックハリスギャラリーでも公開され、人気を博しました。

会場展示終了後の10月20日から26日までは、オンラインギャラリーで展示作品を展示・販売し、世界各地から注文が集まりました。このサイトは現在も閲覧可能です。(https://cwaj/gallery.jp)

当展で版画や関連商品をご購入いただいた純益は、CWAJ奨学金やアーティストへの助成に充てられています。

CWAJ米国展一 ハイフィールドホールで 3度目の開催

2025年6月から10月まで、第67回CWAJ版画展から136点の版画がマサチューセッツ州ファルマスのハイフィールド・ホール&ガーデンズで展示・販売されました。同館では3度目となるこの米国展は、前年に東京で開催されたCWAJ75周年記念展「道を拓いた女性たち—篠田桃紅、吉田千鶴子、岩見禮花、柳澤紀子、辰野登恵子」という女性版画家の先駆者たちにスポットを当てた企画展を中心に構成されました。

展示は大成功を収め、ボストン日米協会の協賛を受けたほか、ケープコッドはもちろん、ボストンやニューイングランド全域で報道されました。期間中は日本文化の体験イベントもたびたび企画され、地域社会で大きな関心を集めました。



ロロ・ピアーナ 女性アーティスト奨励賞

賞金50万円

馮鈺 (ヒョウイ)

I remember, yet I forget

リトグラフ

CWAJ現代版画展ロロ・ピアーナ女性アーティスト奨励賞(賞金50万円)は、イタリアを代表するファッションブランドのロロ・ピアーナ ジャパン社が、女性リーダーの育成に注力してきたCWAJの理念と日本の現代版画を世界に紹介してきたCWAJ版画展の歴史に共感し、女性アーティストの支援を目的に設けられました。

第4回の受賞者は、第68回CWAJ現代版画展の応募作品の中からセレクションアドバイザーとCWAJによって選ばれた、中国浙江省出身、東京都在住の馮鈺(ヒョウイ)さんです。この賞が馮鈺さんのさらなる飛躍と日本の版画界の発展に貢献することを願ってやみません。

2025年度ヤング・プリントメーカー賞

賞金50万円

小林 幹太

(日本大学大学院芸術学専攻科博士前期過程造形芸術専攻
版画分野在学中)

灯りの下で

木版



CWAJは若手版画家の活躍を支援するため、2005年にヤング・プリントメーカー(YPA)賞を創設しました。2024年度の実賞者、小林幹太氏は次のように語っています。「私は自身の価値観を明確にし、画面に固定化することを目的に作品制作をしています。過去、現在、未来において同じモチーフを見たとしても、自身の感性や周りの環境の変化により、そのモチーフから受け取る情報の異なることが往々にしてあります。その為、作品制作を通し現在の自身の価値観を測り、自身が何を重要視しているのか、その移り変わりを観察しています。(中略)YPA賞の賞金は、版画家としての更なる下地の形成を目的に、和紙や道具の比較実験をする為の資金として活用させていただくつもりです。」

2025年度 CWAJ 奨学生

CWAJは2025-2026年度に以下のカテゴリーで1,500万円の奨学金を授与しました。

CWAJ 海外留学文化交流大学院女子奨学金

1名 支給額 350万円 (この奨学金は国際交流基金の支援を受けています)
滑川 永 (なめかわ はるか)
在学学校: デューク大学フュークア経営大学院経営学修士課程(アメリカ合衆国)

CWAJ Cartier 奨学金

1名 支給額 350万円 (Cartier Japanが資金を提供しています)
小山 三井夏 (こやま みいな)
在学学校: カーネギーメロン大学 コンピューターサイエンス学部ヒューマン・コンピュータ・インタラクション研究科教育工学・応用学習科学修士課程(アメリカ合衆国)

CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金

1名 支給額 200万円
ユ レイナ (中華人民共和国)
在学学校: 大阪大学生命機能研究科生命機能専攻博士課程

CWAJ 外国人留学生文化交流大学院女子奨学金

2名 支給額 200万円 (この奨学金は国際交流基金の支援を受けています)
モマニー ウィリター チェムテー (ケニア共和国)
在学学校: 筑波大学博士課程(環境学)
ウエルタ ニューンズ ソフィア (メキシコ合衆国)
在学学校: 東京外国語大学大学院博士課程(平和・紛争研究、グローバル・スタディーズ)

CWAJ 視覚障害学生奨学金 (SVI-SJ)

2名 支給額 各100万円
梅山 智行 (うめやま ともゆき)
在学学校: 東京科学大学大学院理学院化学系化学コース

北名 美雨

(きたな みゆう)
在学学校: 広島大学大学院人間社会科学研究科教育科学専攻教師教育デザイン学プログラム特別支援教育学領域



左から: 滑川永、モマニー ウィリター チェムテー、梅山智行、北名美雨、ウエルタ ニューンズ ソフィア、ユ レイナ、小山三井夏

おめでとう、

2025年度 CWAJ 奨学生の皆さん!

5月28日、CWAJは日本外国特派員協会で開催された5月総会において、2025年度奨学生7名を発表しました。授賞式はいつも喜びと笑顔にあふれていますが、ケニア大使館とメキシコ大使館からの代表者をお迎えして祝えた今年の会は特別なものとなりました。

VVI創立50周年を記念し、2017年度視覚障害者奨学生の兼子莉李那さんが「健常者の特権」と題した基調講演を行い、健常者は生まれながらに不利な条件を持たないという特権の立場にあることを認識するよう訴えかけました。



一等参事官ジェニファー・ニュグナ、モマニー ウィリター チェムテー、ケニア大使館代理大使アーサー・A・アンダンビ大使



メキシコ大使館政治・ジェンダー問題部長バレリア・ソリスとウエルタ ニューンズ ソフィア

CWAJが2025年大阪・関西万博に参加!

CWAJは2025年大阪・関西万博のウーマンズパビリオンin collaboration with Cartier内の「WA」スペースにてプレゼンテーションを行う機会に恵まれました。7月25日に「教育によるエンパワーメント: CWAJ女性が女

性を支える」というテーマで開催した60分プログラムは午前午後二回のセッションとも満席となり、延べ160名が参加しました。パネリストはCWAJ奨学生3名: 石川凛(2023年度CWAJ Cartier奨学生、グローバル経営戦略コンサルタント)、大胡田誠(2005年度CWAJ視覚障害学生奨学生、弁護士、おおごだ法律事務所)、サンギタ・ダス(2002年度CWAJ外国人留学生大学院女子奨学生、NGOコンサルタント兼アドバイザー)。彼らの経験は、高等教育が機会を提供するだけでなく、社会的ニーズに応える新たな道を探求し創造する可能性を秘めていることを示しました。質疑応答のモデレーターは、2023年度CWAJ外国人留学生大学院女子奨学生で、万博米国館ユースアンバサダーのエリザベス・ガマラが務めました。本プログラムはCWAJのミッションである「奨学金を通じ、女性及び視覚に障害のある方々がその能力を最大限に発揮し、社会貢献を果たす道筋を支援する」ことの広報につながりました。



石川凛、大胡田誠、サンギタ・ダス



EXPO 2025のCWAJボランティア



地域貢献活動：2025年に1500時間以上のボランティア活動

視覚障害者との交流会(VVI)は、英語教育プログラムの提供やイベントの実施を通じて、視覚に障害のある学生や成人を支援しており、年間の活動時間は延べ1,500時間以上に達しました。今年度は、VVI創立50周年を記念した特別イベントを開催するとともに、50周年記念冊子も発行しました。また、例年通りニュースレターの発行に加え、ボランティアが日本視覚障害者職能開発センターにおいて週2回の英語指導を実施しました。同センターでは、成人が再就職をめざして職業訓練を受けており、英語力はビジネスにおいて有用なスキルであると考えられています。加えて、筑波大学附属視覚特別支援学校に在籍し、実用英語技能検定(英検)を受験予定の高校生12名に対し、模擬面接を実施しました。さらに、希望する学生を対象にネイティブの英語話者であるボランティアによるマンツーマンの英会話プログラムも提供しました。

2025年、CWAJ留学生サークル(FSC)は、東京在住の留学生への支援を継続しました。本年はプロ字幕翻訳者を招いた好評のオンラインプログラムで幕を開け、ひな祭りの外出、卒業生を祝うアフタヌーンティー、CWAJ版画展見学、年末の巻き寿司作りパーティーなど、季節や文化を体験する多彩な活動が続きました。

2025年、子ども向け英語支援ボランティアは聖ヨセフ児童養護施設を5回訪問。各訪問では、子供たちの英語への親しみを深めるための双方向型レッスンプランを実施。絵本読み聞かせ、ゲーム、工作、ワークシートの4ステーションをローテーションし、楽しい環境で英語に触れさせました。各クラスは、当団体メンバーが日本語に翻訳した絵本を基に構成。絵本の裏表紙にあるQRコードから、メンバーによる英語・日本語の二言語朗読録音が聴けます。

カルチャープログラム

カルチャープログラム委員会は9月19日(金)、神楽坂の矢来能楽堂にて能楽イベント「能の世界へご招待」を開催し、90名が参加しました。能楽の体験型として 能面・鼓・舞踊の実践に加え、重要無形文化財総合保持者・松木千俊氏による実演が行われました。参加者は能楽師の指導のもと、ワークショップを大いに楽しみました。その他の行事としては、4月5日には浄土宗開祖・法然上人の命日を追悼する増上寺「行基大祭」、また5月12日のアフタヌーンティーコンサートに参加しました。

第3回CWAJ 国際女性データークイベントの開催



CWAJは昨年に引き継ぎ、2025年3月6日に日本外国特派員協会にて「ジェンダー平等社会の実現に向けてAIが果たすもの」をテーマに国際女性データークイベントを開催いたしました。パネリストとして3名の研究者に登壇いただき、石井クンツ昌子氏(お茶の水大学副学長・理事)は、男性のデータに基づいて作られた薬が女性にもたらす危険等に取り組む「ジェンダード・イノベーション」、新田泉氏(富士通株式会社・人工知能研究所)は、日本の雇用プロセスにおける性差別をAIが改善する可能性、板津木綿子氏(東京大学・元CWAJ奨学生)は、社会的不平等一般に対してAIが果たしうる意味などについて大いに語っていただきました。モデレーターは異文化コミュニケーターとして知られるCWAJ会員のマリ・クリスティーンがつとめました。

当日はメディア関係者や元CWAJ奨学生を含む70名が参加し、トーク終了後はパネリストたちに多くの質問が寄せられ会場は大変盛り上がりしました。後半のQ&Aコーナーにおいても参加者たちは名残惜しむかのようにパネリストのもとに集まり話を聴いていました。本イベントは、女性のエンパワメント推進と社会のあらゆる領域での平等実現に向けたCWAJの揺るぎない使命を改めて示す機会となりました。

月例会プログラム



1月 伊藤守康 (神職、明治神宮国際文化研究所)
「神職外交官の目を通して見る神道文化」



6月 ジョン・トッフルマイア(都市地域経済学者)
「中山道 — 日本の歴史に触れる」



2月 パトリシア・マッシー (アーティスト兼作家)
「日本の色彩」



9月 平塚雄二(版画家)
「浮世絵が私の作品に与えた影響」



3月 ルース・ソニア・シモニス (研究者)
「アウグストゥス強王と日本の磁器への情熱」



10月 岩本光弘
「見えないものを見る — 絶望から希望の地平線へ」



4月 ナンシー・コネル博士
「鳥インフルエンザ — 鳥から牛、そして人間への長い道のり」



11月 トビー・スレイド博士 (シドニー工科大学教授)
「Kawaii: 日本の「かわいい」の美学」



5月 兼子莉李那 (2017年SVI-SJ奨学生)
「健常者の特権」



12月 西澤蓮聖 (シンガーソングライター)
「ホリデーシーズンにぴったりの楽しい音楽体験」

